

“大切な花”を咲かせよう



保育所等訪問支援通信NO. 3-1

令和3年度がスタートしました！一つお兄さん・お姉さんになった子ども達だけではなく、新しいクラスになり、先生方もワクワクドキドキしているのではないのでしょうか？今年度も子ども達の成長を先生方と見守っていただけること、嬉しく思います。一緒に素敵な一年にしていましょね。どうぞ宜しくお願い致します。さて、今年度は“インクルーシブな保育”をテーマにして通信をお届けします。受け持っているクラスの子も達みんなが過ごしやすい方法や、子どもの良いところを伸ばす保育を一緒に考えていきたいと思います(*^-^*)

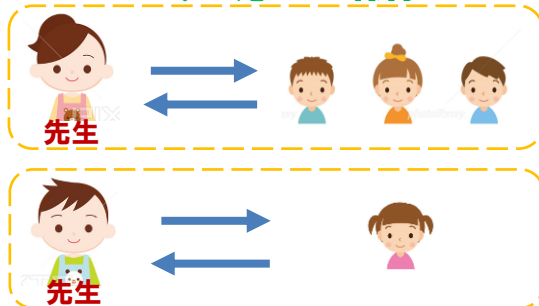
そもそも、“インクルーシブな保育”って？



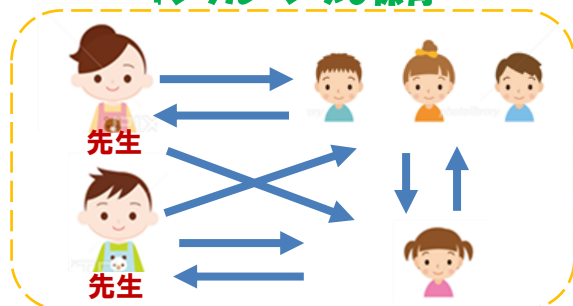
インクルーシブとは「包括的な、包み込んだ」という意味です。そのことから、インクルーシブな保育とは“障害のある子もない子も、気になる子も、みんなが同じ場所で共に遊び、共に学び、共に育つ”という保育をさします。

＜インクルーシブな保育のあり方＞

多く見られる保育



インクルーシブな保育



上のイラストのように複数の先生で担任をしたり、加配の先生を配置したり、様子を見て他クラスの先生が応援に入ったりしながら、日々保育を進めていることと思います。集団から離れた子に先生が付き添う場合があるとありますが、みんなと別行動になりすぎではいませんか？上記2つの保育を見比べてみると、【多く見られる保育】の場合、クラスは同じでも、違うクラスのような印象です。どうしても集団から離れてしまうこともあると思いますが、【インクルーシブな保育】のように矢印で示した関わりを沢山持てるよう意識し、お互いが“クラスの仲間”と思い合えるクラス作りや、“共に育つ”保育を目指していきたいですね(*^-^*)

さっそく実践 インクルーシブな保育！その第一歩は“その子理解”

好きなことや苦手なこと、どんな伝え方が理解しやすいのか？など、一人ひとり異なります。インクルーシブな保育は子どもの理解があってこそ出来るもの。子どもと向き合うときに大切にしたい視点をご紹介します。

“良いところ探し”をしよう！

「落ち着きがない」「トラブルが多い」など、気になる部分に目が向き、気付かないうちに“困った子”とレッテルを貼っていることはありませんか？どの子にも素敵ところは必ずありますよね。意識して“良いところ探し”をしてみましょう。又、それをみんなの前で伝えれば、その子の自信にも繋がります。

“好き”や“興味”を知って、活かそう！

興味に偏りがあったり苦手なものがあったりすると活動への参加が難しいことがありますね。でも、例えば顔の制作の場合、クレヨンで描く方法もあれば、目や鼻のシールを貼って作る方法もあります。“他の子と同じように”ではなく、その子の好きなことや興味があることをヒントにしてねらい・方法を考えてみましょう。

参考書籍 “気になる子”と育ちあうインクルーシブな保育 酒井幸子・守巧／著



吉岡かよ

武藤理紗

大柴知子

田切美紀

児童発達支援センター つつじが崎学園
地域支援事業部 保育所等訪問支援
〒400-0013

山梨県甲府市岩窪町6 1 4番地

Tel 055-251-7678

Fax 055-251-7679

Mail ooshiba@tutuji.or.jp

担当：吉岡かよ 武藤理紗

大柴知子 田切美紀